

〔指定管理者制度導入施設〕〔A調書〕

事業評価調書〔途中評価〕（令和元年度）

1. 施設の名称等

施設名称	雲仙岳災害記念館（がまだすドーム）	事業所管	企画振興部	地域づくり推進課
所在地	島原市平成町1-1	課（室）長名	浦 亮治	
総合計画上の位置づけ	基本戦略	9	快適で安全・安心な暮らしをつくる	
	施策	(1)	しまや過疎地域等の活性化と持続可能な社会の基盤づくり	
	事業群	③	過疎・半島地域の活性化	

2. 施設の概要

設置年月日	平成14年7月1日（平成14年7月1日）							
設置法令等	雲仙岳災害記念館条例（平成13年10月9日）							
設置目的	<ul style="list-style-type: none"> 雲仙普賢岳噴火災害の脅威と教訓を学習・伝承する施設 噴火災害遺構等を野外の博物館と捉える「平成新山がんばんランド」の中核施設 全国からの支援に対する感謝の気持ちを表す施設 							
利用対象者等	主な利用対象：県民及び県外観光客 開館時間：午前9時～午後6時、年中無休（メンテナンス休館期間を除く）							
施設内容	敷地面積：6ha、延床面積：5,904㎡ 主な施設：有料展示ゾーン、こどもジオパーク、ワンダーラボ、ミュージアムショップ、カフェレストラン、多目的ルーム、セミナー室、事務室							
施設の利用料金体系	NO	有料ゾーンの入場料（円、税込）	大人	中高生	小学生	小学生未満	○障がい者及びその介助者 1名半額 ○車椅子、ベビーカー貸出 無料 ○海外客向けの音声案内 装置貸出無料（要予約）	
	①	常設展示	個人	1,000	700	500		-
			団体（15名以上）	800	560	400		-
	②	こどもジオパーク	個人	300				
	③	①+②年間フリーパス	1,500					
	④	ワンダーラボ	個人	500				
			団体（15名以上）	400				
年間フリーパス提示			250					
⑤	セット券	①+②	1,000	700	500	300		
⑥		①+②+④	1,200	900	700	500		
類似施設の設置状況	施設名		阿蘇火山博物館	桜島ビジターセンター				
	入館料	中学生以上	860円	無料				
		小学生	430円					
		幼児	無料					
	利用者数（H30年度実績）		54,224人	110,231人				
	指定管理者制度導入		-	平成21年4月1日				
	開設年月		昭和57年4月	昭和63年4月				
施設延べ面積（敷地面積）		4,248㎡（5,522㎡）	596㎡（4,538㎡）					
県 予 算	区 分 (単位：千円)		平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (計画)	
	財源	国庫						
		その他()						
		一般財源	2,096	0	0	4,212	3,780	
	事業費<A>		2,096	0	0	4,212	3,780	
	内訳	管理運営負担金						
		その他()	2,096	0	0	4,212	3,780	
人件費								
合計<C=A+B>		2,096	0	0	4,212	3,780		
単位あたりコスト								
(説明) 「 」 = C ÷ ()								

3. 指定管理者の概要

指定管理者の名称等	≪所在地≫ 島原市城内1-1205 ≪名称≫ (公財)雲仙岳災害記念財団	≪代表者氏名≫ 理事長 古川 隆三郎
指定期間	平成30年4月1日	～ 令和3年3月31日
業 務	①施設（設備）の維持・修繕等 ②雲仙岳災害記念館の管理運営	
利用料金制	<input checked="" type="checkbox"/> 導入済 <input type="checkbox"/> 未導入	選定方法 <input type="checkbox"/> 公募 <input checked="" type="checkbox"/> 非公募

4. 成果指標の達成状況及び管理運営に要した経費等の収支状況

成果指標の達成状況	① 有料施設入館者数		(目標値の根拠) ①事業計画による		<元年度実施における変更点> 常設展示に加えて、有料施設として「こどもジオパーク、ワンダーラボ」が、H30年度に新設されたので成果指標①を「有料展示ゾーン入館者数」から「有料施設入館者数」に変更した。			
	② 雲仙岳災害記念館の管理瑕疵による事故発生件数		③雲仙岳災害記念館を安全な状態に維持することを目指す					
	実 績		平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (計画)	
		単位						
①	a 目標値	人	115,000	100,000	84,000	163,200	189,110	
	b 実績値	人	95,236	76,880	67,084	216,499		
	c 達成率b/a	%	82	76	79	132		
②	a 目標値	件	0	0	0	0	0	
	b 実績値	件	0	0	0	0	0	
	c 達成率b/a	%	100	100	100	100		
③	a 目標値							
	b 実績値							
	c 達成率b/a	%						
指定管理者の収支状況		事業計画 (H 30)		平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (計画)
		(千円)	実績-計画					
収入	利用料金	98,103	-1,450	64,850	53,196	44,665	96,653	89,760
	県負担金	0	0	0	0	0	0	0
	その他	78,107	371,175	91,260	79,548	159,537	449,282	79,110
	計a	176,210	369,725	156,110	132,744	204,202	545,935	168,870
支出b	176,114	430,114	147,679	136,367	144,984	606,228	178,474	
うち人件費	72,425	-16,125	60,921	51,989	47,894	56,300	70,529	
収支a-b	96	-60,389	8,431	-3,623	59,218	-60,293	-9,604	
配置職員数 (人)	常勤3 非常勤6	常勤 非常勤	常勤2 非常勤5	常勤2 非常勤5	常勤2 非常勤5	常勤2 非常勤6	常勤3 非常勤5	

5. 平成30年度事業の実施状況・実績の検証

管理運営の状況	計 画	実 績
	<p><指定管理者実施分></p> <p>①施設及び付属施設等の維持及び修繕 業務内容は、基本協定書による。</p> <p>②記念館の効率的な管理運営 入館者の安全確保のため、通常時より施設の不具合箇所を調査し、修繕等の対応を行うなど、施設の安全性の向上を図るとともに、人件費や委託料など管理運営経費の縮減を図り、効率的な管理運営を行う。</p> <p>③記念館の集客活動及び入館者サービスの向上 入館者数の目標達成のため、集客活動に積極的に取り組むとともに、噴火災害の伝承を行っていくための学習会等を開催する。</p> <p><県実施分></p>	<p><指定管理者実施分></p> <p>①有料展示ゾーンをはじめとする施設内の機器等の運転、清掃、各種保守点検業務が、基本協定書に基づき適正に実施された。</p> <p>②日頃から施設の不具合箇所を調査し、修繕を要する箇所については修繕工事を行うことで施設の安全性の向上を図るとともに、これまでも管理経費の削減に努めてきた中、電気代について効率的な運用を行うなどして管理運営経費の縮減に努めた。</p> <p>③県観光連盟や島原半島観光連盟、近隣施設等と連携し、旅行会社や学校等への訪問等による誘致活動を実施するとともに、H30のリニューアルオープンを県内外に周知を図るため、各メディアを活用した広報に力を入れた。また、様々な企画展やイベント等を実施しながら、入館者に対する噴火災害の伝承に努めた。</p> <p><県実施分></p>
	検 証	
<p>○管理運営業務は協定等に沿って適正に実施され、施設の安全性の向上に努めた結果、管理瑕疵による事故発生等は起こっておらず、施設を安全な状態に維持することができた。</p> <p>○常設展示は個人客が計画を上回るも、修学旅行が熊本地震によるコース変更と雲仙エリアにおける受け入れ可能な宿泊場所が減少したことで、団体客が伸び悩んだが、リニューアルで新設した「こどもジオパーク」、「ワンダーラボ」の利用者が計画を大幅に上回り、トータルとして目標を達成した。</p> <p>○H30.4月のリニューアルオープンについて、テレビCM、ラジオ、新聞、雑誌、チラシ、ポスターでPRするとともに、リニューアル前に報道向けの内覧会を実施し、新聞、雑誌等への広報周知を行った。また、リニューアルにあわせたホームページも更新し、新しくなった施設の魅力をPRした。その結果、大幅な入館者数の増加につながった。</p>		

収支計画・実績

<指定管理者実施分>

(単位：千円)

主な項目	計画	実績	増減理由・収支改善の取り組み等
収入 a	176,210	545,935	
うち入館料	98,103	96,653	入館者数では、「常設展示」は個人客が計画を上回るも、修学旅行が熊本地震によるコース変更と雲仙エリアにおける受け入れ可能な宿泊場所が減少したことで、団体客が伸び悩んだが、リニューアルで新設した「こどもジオパーク」、「ワンダーラボ」の利用者が計画を大幅に上回り、トータルとして目標を達成した。しかしながら、「こどもジオパーク」、「ワンダーラボ」の利用料が常設展示より低いことから、目標に届かなかった。
うち一般会計繰入	75,100	443,013	当初予算では通常＋臨時繰入75,100千円であったが、通常＋臨時繰入金55,000千円、リニューアル費用388,013千円（前期繰越したリニューアル工事分373,627千円含む）計443,013千円の執行。リニューアル工事はH29年度に完了したが、支払いはH30年度となった。
その他	3,007	6,269	
支出 b	176,114	606,228	
うち人件費	72,425	56,300	概ね計画通り実施された。
うち委託料	22,500	23,649	概ね計画通り実施された。
うち光熱水費	23,000	25,335	概ね計画通り実施された。光熱水費は冷暖房にかかる電気料金の単価増により実績増となっている。
その他	58,189	500,944	リニューアル費用、広報費及び修繕費が実績増である。
収支 a-b	96	△ 60,293	

収支の状況

<県実施分>

検 証

○収入については、リニューアル効果により前年度からは大幅に伸びているが、常設展示については、修学旅行を中心とした団体客の伸び悩みによって、計画を達成できなかった。修学旅行の低迷は、熊本地震によるコース変更と雲仙エリアにおける受け入れ可能な宿泊場所の減少によるもの。運用財産の取り崩しが毎年発生する状況が続いている。

○支出については、広報活動の強化や、緊急の修繕工事などで増加したが、業者発注業務の競争性を高めることで、経費削減に努めた。

指定管理者制度の導入効果を踏まえた施設の設置目的の達成状況の総合評価

B

(説明)

○指定管理者制度の導入により、目的達成への取組として、財団の学芸員等を中心に火山関係資源等を活用した企画展やイベント等を開催するとともに、災害の伝承・学習活動として被災体験講話の実施、さらに防災教育の推進のため、防災教育プログラム、理科教育プログラムを実施した。

○以上のとおり、指定管理者制度の導入効果として、前年度の実績と比較すると大幅に伸びていることから、多くの県民や県外観光客に対する災害と教訓の学習・伝承という施設の設置目的の達成に成果が上がっていると考えられる。

○今後は、関係機関との一層の連携のもと集客活動の強化を図りながら、収支均衡に向けた管理運営経費の縮減に努め、設置目的の達成に向けた成果を上げていく必要がある。

6. 令和元年度事業の実施にあたり見直した内容

内 容

○施設のリニューアルについて

・地域の拠点施設として半島周辺の人達が週末や夏休み等に気軽に集う施設を目指し、従来からの災害伝承の展示に加えて子供向けの実験ゾーンや体験ゾーンを新設し、H30年4月にリニューアルオープンした。それに伴い、人員配置など運営体制の強化を図るとともに、職員のスキルアップ研修の実施や新たな実験・体験プログラムの開発・充実を図る。

○集客・広報対策について

・各種メディアを活用して、来館者の実績が多く、今後の見込みが立つ福岡や熊本をターゲットとして重点的に広報活動に力を入れ、その他の地域についても無料の媒体や取材を活用しながら、効果的な広報活動を実施していく。
 ・県観光連盟等と連携を図りながらリニューアルの情報を積極的に情報発信するとともに、气象台や消防学校など新たな団体との連携による企画イベントの充実を図る。

7. 令和元年度事業の評価

指定管理者の行う管理運営等に関する評価	視点	評価	判定理由
	・施設の設置目的にあった管理運営が行われているか。	a	県民や県外観光客に災害の教訓等を伝承していく施設として、設置目的にあった事業を実施している。
	・住民の公平かつ平等な利用の確保が行われているか。	a	地域住民に対し、イベント開催時は施設を広く開放するなど、公平かつ平等な利用を確保している。
	・利用者に質の高いサービスの提供が行われているか。	a	参加者も体験できる新たな企画展の開催、火山学習プログラムの充実や被災体験講話（語り部特別講話）の実施など、入館者の満足度を向上するための方策を実施している。
	・施設・設備の維持管理は適切に行われているか。	a	施設・設備の機器類の定期保守点検、施設内外の定期清掃の実施など、維持管理が適切に行われている。
	・収入の確保に向けた取り組みが行われているか。	b	校長会への出席や学校戸別訪問、学童クラブ・子ども会等への周知活動を行うなど集客対策を実施し、収入の確保に積極的に取り組んでいる。
	・経費節減に向けた取り組みが行われているか。	a	館内設備の精査による保守業務の見直しや電気使用量監視システムによる電気料金の縮減等、経費節減に取り組んでいる。
(その他の観点) ※評価区分 (a : 行われている b : 一部行われていない c : 行われていない)			

施設の在り方についての評価	視点	評価	理由
	・県民ニーズに照らして、事業の必要性が薄れていないか。	■ a. 薄れていない b. 一部薄れている c. 薄れている	災害の脅威と教訓の学習・伝承という施設の設置目的の必要性は全く薄れておらず、近年自然災害が増加する中、その必要性は増している。
	・事業を取りまく環境、経済情勢などの変化に適切しているか。	■ a. 適応している b. 一部適応していない c. 適応していない	最新の全国の災害等の情報も紹介しつつ、防災知識を楽しく学ぶためのワークショップを実施するなど新たな取組を行っている。
	・市町または民間に移管・移譲することが適当（可能）ではないか。	a. 適当（可能）でない ■ b. 一部適当（可能）でない c. 適当（可能）である	災害の脅威と教訓を多くの県民や県外観光客に伝え、防災意識の向上を図っていくためには、県と市町、民間団体が役割分担をしながら取組んでいくことが適当である。
	・県の負担や業務量に見合った活動結果が得られているか。	■ a. 得られている b. 一部得られている c. 得られていない	県は施設の管理運営経費を負担しておらず、必要最低限の経費と人員で施設の管理運営を行っており、業務量に見合った活動結果が得られている。
	・指定管理者制度以外で、同一の県負担や業務量でより大きな活動結果が得られる手法に代えられないか。	■ a. 代えられない b. 一部代えられない c. 代えられる	指定管理者制度のもと、県の管理運営経費の負担なしで効率的な管理運営が行われており、現時点でこれに代わる手法はない。
	・指定管理者制度は、施設の設置目的の達成に十分寄与する手法となっているか。	■ a. なっている b. 一部なっていない c. なっていない	指定管理者制度のもとで施設の効率的な管理運営が行われ、災害の脅威と教訓の学習・伝承という施設の設置目的を達成している。
・事業効果をさらに上げる余地はないか。	a. 余地はない ■ b. 一部余地がある c. 余地がある	入館者数の目標達成に向け、集客活動をより一層積極的に取り組むとともに、収支均衡に向けた管理運営経費の縮減に努めるなど、施設の運営方法の改善に取り組む必要がある。	
(その他の観点)			

8. 令和2年度事業の実施に向けた方向性

区分	現状維持	■ 改善	移管	廃止
(説明：2年度事業の実施に向けた方向性の理由・見直しの内容)				
<p>こどもジオパークやワンダーラボの新設や平成大噴火シアターの改修など、こどもから大人まで楽しみながら学習できる施設としてH30年4月にリニューアルオープンし、大幅な集客増につながった。今後は、団体客・修学旅行の誘致活動について関係団体と連携し、これまで以上に力を入れることとし、特に常設展示の実績増に繋げていく。</p> <p>さらに、より多くの方々の集客とリピーター創出のため、屋外スペースを開放し、市民をはじめ各種イベント等と共催したイベントを行うなど、地元の方々を中心に施設に親しんでいただく仕掛けの検討や、実験・体験プログラムの充実、情報発信の強化等に取り組んでいく。</p>				